

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	0174600528		
法人名	株式会社エスプリット		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームローズマリー		
所在地	北海道帯広市西12条南4丁目1-3 (電話) 0155-38-2336		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年6月26日	評価確定日	平成20年10月6日

【情報提供票より】(平成20年6月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年3月20日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤8人, 非常勤15人, 常勤換算18.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 50 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(6月2日現在)

利用者人数	23 名	男性 8 名	女性 15 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	10 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.5 歳	最低 58 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長屋胃腸内科医院 吉川歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ゆっくり、一緒に、たのしく」生活することを目指して、日々の介護に取り組み、食事の献立づくりなどへの利用者が意見や要望を表明する機会や、利用者が自分でできることを、大切にしている。管理者は、認知症の特性や利用者個人を理解するよう努め、利用者一人ひとりの生活歴などを活かしながら、その人らしく生活できるようなケアを目指している。職員は、介護の仕事に生きがいを持ち、利用者一人ひとりが能力を活かしながら生活ができるよう、支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題であった、施設、地域への働きかけについては、様々な努力をしているが、まだ解決するまでには至っていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	今回の自己評価を通して、特に地域との連携に重点的に取り組みたいと考えている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催し、地域包括支援センター職員・家族代表・管理者・施設長・副施設長などが参加している。年間行事の予定や、事業所での取り組み内容等の報告のほか、町内会行事への参加に向けての話し合い等も行っているが、町内会への参加実現までには至っていない。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族の面会や電話での連絡時など、話しやすい雰囲気づくりに努めている。運営推進会議にも家族の参加があり、意見等を聞くよう努力している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会への加入や、行事等への参加ができるよう、地域住民に働きかけている。日常的にも、挨拶をするなど交流を心がけている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作成し、その人らしく暮らし続けることを支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新規職員には、雇用時から理念・運営方針等の説明を行っている。日常的にも、介護の状況に合わせて理念を日々のケアに活かすよう、職員にその都度具体的な働きかけをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への入会を申し込んでいる。地域の行事にも参加できるよう町内会に働きかけている。散歩などで近隣住民に会う時には、挨拶を欠かさないようにしている。	○	今後も、事業所での行事などに地域住民を誘う等しながら、認知症や認知症高齢者への理解を深めてもらうよう努力することを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価の実施を通し、特に地域との関係について、重点的に取り組もうと考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一回開催している。事業所行事への案内・報告、事業所での取り組みや運営状況などの報告や、町内会行事への参加に向けての話し合いなどを行っている。	○	運営推進会議への地域住民の参加がまだ少なく、会議内容等を精査しながら、協力が得られるよう取り組むことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町内会との関わりなどについても、市の協力を得ながら取り組むよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や、利用者の状態が変化した時には、その都度報告をするなどしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や、ケアプラン作成時などにも、意見を聞くよう家族に声をかけている。運営推進会議にも、家族の代表者が参加している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わった場合には、利用者に新入職員を紹介し、説明をするなどしている。できる限り職員の引き継ぎ期間を設け、利用者への影響が少なくなるよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員採用時研修は、3ヶ月以内に行っている。実務者研修基礎課程は5名受講している。	○	非常勤職員に対しての研修が少ないので、研修の機会を持つことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入っているが、相互交流は少ない。	○	サービスの質の向上のため、同業者と交流する機会を持つよう期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、利用者の自宅やかかりつけの病院に職員が出向くほか、事業所まで見学に来ることができる方には、見学をしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	煮物や煮魚の作り方・料理の味付け・食品の無駄にならない使い方・包丁の研ぎ方・歌・編み物・戦中の話・短歌など、様々なことを利用者に教えてもらいながら、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	畑を作りたい、外食に行きたい、買い物に行きたい、カラオケに行きたいなど、利用者一人ひとりの希望を聞き、できる限り実現できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりへの担当者制をとり、介護支援専門員が立てた基本の介護計画を基に、アセスメントを行い、スタッフの意見を取り入れ、家族の意見や同意を得て、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化時には、担当職員を中心にケア会議を行うなどしながら、現状に即した計画を立てるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用開始前に住んでいた自宅に、鍵がかかっているかを心配する利用者と鍵の確認に行ったり、地方にある自宅を見に行きたいと希望する利用者に同行するなど、柔軟な支援を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、利用開始前からのかかりつけ医を受診している場合が多い。往診をする医療機関もあり、希望に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・医師等と話し合いをしながら、検討している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	アセスメント表は、施錠できる書棚に保管している。記録等の個人情報は、決められた場所に保管することを徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・食事の味加減・入浴の時間や、家族に会いに行きたい等の、その日の一人ひとりの希望に沿って、支援できるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望を聞きながら、献立をたて買い物をするようにしている。調理・味付け・片づけなど、利用者の力を活かしながら行っている。行事食などに季節のものを採り入れたり、誕生日会を行うなど、食事を楽しめる工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めず、利用者の要望に合わせて、入浴ができるようにしている。夜間入浴にしたことで、入浴するようになった利用者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶碗洗い・ゴミ集め・除雪・落ち葉掃き・観葉植物の水やり・日めくり・バイタル測定など、生活歴や職業経験を活かした役割などの支援をしている。飲酒・家族への電話など、様々な楽しみごとへの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、前庭で日光浴や散歩ができるようにしている。買い物にも要望があればその都度行けるよう配慮しているほか、外食・カラオケなど、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全面から、家族の同意を得て玄関は施錠しているが、利用者が閉じこめられているような感じを持たないように、外と一緒に歩いたり外出の機会を持つようにしている。	○	施錠することの弊害は理解しているので、今後は更に工夫をするなどし、「鍵をかけないケア」に取り組むことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は、年に2回行っている。消火訓練なども行っている。	○	今後は、少しずつでも地域の協力が得られるように、取り組みを継続するよう期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の利用者へは、事業所が食事指導を受け実行している。糖尿病ではない利用者についても、食事量の把握はできている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と食堂を兼ねた共用空間には、三方に窓があり、大変明るい空間となっている。写真などを飾ったり、季節感が感じられる飾りを置くなど工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇・位牌を持ち込み花や供え物をあげたり、鉢植え・自作の手工芸作品などを飾るなど、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。